

山里川海の一体保全に寄与することを目的に、一般社団法人グリーンバナー推進協会は大自然のなかや一次産業の現場で調査や保全活動を続けております。その現場から、特に気になるトレンドや現象を連続レポートでリアルにお伝えしたいと思います。第9回目は森林を生かした新しいアトラクションの潮流についてレポートします。



放置されていた森林が笑顔で満たされる

放置されていた森林を笑顔で満たす「冒険の森」が関西圏で躍進中

関西の森林で株式会社冒険の森が運営するアスレチック施設が増えてきています。

「冒険の森」は、使われなくなった森林を活用した自然共生型アウトドアパークで、森へ人を呼び、収益を上げ、収益の一部を森林整備の財源とする、森林再生を目的としたビジネスモデルの構築を目指しています。従来のアスレチック施設は野山の木を伐採して平坦な土地に造成し、機材や設備を運び込んで施設を建設するのが一般的でした。それを冒険の森では、ほとんど木を切らずに現場の樹木や地形の特性を活用して、シンプルなのに楽しい施設をつくることで好評を博しています。

現在は、奈良県山添村、岡山県真庭市、大阪府能勢町、岐阜県郡上市の山中に「冒険の森」ができており、さらに兵庫県や和歌山県でも計画が進んでいます。

楽しみながら「学び」を持ち帰られる施設を目指す



株式会社冒険の森の伴戸忠三郎社長と大阪府が所有する緑地公園を視察する機会があり、伴戸社長の話を聞きました。「私は奈良県天理市の出身で里山のすぐ近くで暮らしてきました。子供の頃は山に入って遊ぶことも多かったのですが、だんだん誰も山で遊ばなくなってきて、今では人が立ち入らない放置林ばかりになってしまいました。森林は地方都市にとって財産であるはずなのに気が付けば重荷にすらなっていたのです」

伴戸社長が2011年に創業した冒険の森は、右のコンセプトを約束として守っています。上記の写真のように木の上に木製の設備を取り付けることで「ツリートップアドベンチャー」を実現したところ、初年度から1万人以上の人々が冒険の森を訪れました。クチコミが広がって、ファミリーからデートから部活まで幅広い層の人たちが冒険を楽しみにきた結果でした。



施設の開設費や運営費は入園料で賄うのが基本

冒険の森は、楽しいだけではなく、冒険教育という考えをもとに「学び」を持ち帰ることができる施設にすることに力を入れています。施設での体験を学校や職場や私生活で生かせるようにカリキュラムが工夫されており、これまでにリスクマネジメントやチームビルディングを目的とした校外学習や企業研修に利用されています。また、児童養護施設や聴覚障害者のカウンセリングに利用された実績もあります。

冒険の森を開設する初期費用や運営費用は、来園者が支払う入園料3500円（大人・子供同額）で賄うのを基本としています。従って集客が可能かどうか冒険の森を開設する上で重要な要素となります。伴戸社長によると車で1時間圏内の人口や山の地形や植生など立地の選択を厳しく行わないと後で続かない事態になるといいます。

「補助金頼みではなくきちんと収益を上げることを目指すことで、利益を森林の保全に使ったり、地域の雇用を創出したりすることができるので、マーケティングや経営ノウハウを駆使して頑張っています」（伴戸社長）

最近は自治体から誘致の声がかかることも多く、集客だけでは費用が賄えない立地の場合などは収益と補助金を組み合わせるといった提案も行っているといえます。森林に人を呼び込むことをあきらめてしまっている自治体も多い中で、冒険の森の挑戦は注目されます。



関東では森林の木の上でスポーツを楽しむアトラクションも誕生

関東で話題になっているのは、神奈川県南足利市で足柄グリーンサービス森林公園有限責任事業組合が運営する「森の空中あそび・パカブ」です。

パカブ発祥の地は、フランスのブルターニュ地方のグロワ島です。海に浮かぶこの小さな島は、漁業が盛んということもあり、住民にとって身近な漁網を使って、今までなかった遊びをつくったところ、過疎化が進んでいたグロワ島の名物となり、若者の島外流出を防いだというエピソードがあります。フランス・イギリスに次いで世界で3か国目となり、世界的に見てもまだ珍しいアトラクションです。

内容は、森の中に張り巡らされた、さまざまなかたちをした網のアトラクションで、網の広場で跳ねる、吊り橋をユラユラ渡る、空中迷路を楽しむ、空中でミニサッカーやバトミントン、ドッチボールなどの遊びが体験できます。

冒険の森と同様に、森をそのまま生かし、森林に人を呼び込む新しいビジネスとして注目されています。



森林公園は全国の市町村にあります。共通した課題は財源です。整備した公園も予算不足で放置したとたん荒れていき、人が来なくなってしまいます。このレポートで何度も触れていますが、森林に適切に経済を持ち込むことが重要で、こうした取り組みが全国に広がっていくことを願います。